

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

August 15, 2025

FRB 議長のジャクソンホール講演に注目

- ◆ドル円、パウエル FRB 議長のジャクソンホールでの講演や次期 FRB 議長人事に注目
- ◆日本の 7 月 CPI や石破首相の進退にも注意
- ◆ユーロドル、8 月ユーロ圏製造業・サービス業 PMI 速報値に注目

予想レンジ

ドル円 145.00-149.50 円
ユーロドル 1.1400-1.1850 ドル

8 月 18 日週の展望

ドル円は、22 日にジャクソンホール会合で講演するパウエル FRB 議長の発言に注目が集まる。利下げ時期や年内の利下げ回数への言及などを確認したい。また、次期 FRB 議長の人選などにも注目しながら、7 月の日本の消費者物価指数 (CPI) などを見極めていくことになる。

来週は先ず、20 日に公表される 7 月 29-30 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨で、労働市場の脆弱性への警戒感から 0.25% の利下げを主張したウォラー FRB 理事とボウマン FRB 副議長を除く多数派による政策金利据え置きを確認することになる。

また、21-23 日に開催されるジャクソンホール会合の今年のテーマは「雇用市場」となっており、パウエル FRB 議長が基調講演において、従来の「堅調な労働市場」という見立てについてどのような見解を示すのか。7 月の雇用統計での大幅下方修正を受けて、利下げに対しての言及があるのかどうか注目だろう。昨年の会合でも、パウエル FRB 議長は講演において「政策金利を引き下げる時が来た」との見解を表明。市場に政策変更を伝えることになった。

更には、次期 FRB 議長の人選に関しては現在、ベッセント米財務長官の下で 11 名程度の候補者の中から選択が行われている。次期 FRB 議長が早期に決定した場合、「影の議長」として、トランプ米大統領に忖度しているとされている、ウォラー FRB 理事、ボウマン FRB 副議長、ミラン FRB 暫定理事と連携して、今後の FOMC での利下げ圧力を強めることが警戒されるだろう。

日本国内では、石破首相の進退に関するヘッドラインに警戒しながら、7 月の消費者物価指数 (CPI) に注目しておきたい。石破首相辞任ならば、次期政権への期待感から日本株高・円安が見込まれている。また、7 月 CPI の数字次第では、トランプ関税の不確実性が後退しつつあることで、日銀の早期利上げ観測に影響することになるだろう。

ユーロドルは、米国と欧州連合 (EU) との関税合意による欧州の景況感悪化が懸念される中、8 月の製造業・サービス業 PMI 速報値に注目。8 月の独・ユーロ圏 ZEW 景況指数の悪化に続き、PMI も悪化していた場合は、欧州中央銀行 (ECB) の追加利下げ観測が高まることになりそうだ。

8 月 11 日週の回顧

ドル円は、148.52 円まで上昇した後、米 CPI 後に 146.21 円まで反落。ベッセント米財務長官が米大幅利下げに言及したほか、日銀の利上げを促したことも売りを後押しした。ただ、米 PPI が上振れたことから 147.96 円まで一転して買戻されている。ユーロドルは、米長期金利の低下につれて 1.1590 ドルから 1.1730 ドルまで上昇したものの、強い米 PPI を受けて 1.1631 ドルまで下押ししている。また、ユーロ円は日米株価指数の史上最高値を背景に 173.02 円まで上昇後、日銀の早期利上げ観測から 170.97 円まで反落した。(了)